



http://www.hcr.or.jp

Int. Home Care & Rehabilitation

CONTENTS

絶え間ない福祉機器の開発普及を 福祉機器利用者アンケート結果まとまる — 1	H.C.R. 2006報告 障害者自立支援法と障害者の生活を 考える — 4
国際情勢報告 イングランドのソーシャルケアに関する レポート② — 2	インフォメーション 高齢者の住宅について考える — 8

編集・発行：財団法人 保健福祉広報協会
Publisher: Health and Welfare Information Association

住所：〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
TEL.03-3580-3052 FAX.03-5512-9798
定価1部 200円(消費税・送料込)

絶え間ない福祉機器の開発普及を —福祉機器利用者アンケート結果まとまる—

福祉機器市場規模は、2004年度に11,821億円(福祉用具産業市場動向調査より)でした。介護保険制度開始時の2000年度の11,599億円に比べ1.9%の増加と、ここ5年間わずかながらも増加してきました。

そうしたなか、今年度施行された改正介護保険法による制度の見直しは、レンタル事業者やベッドメーカーを筆頭に福祉機器市場に大きな影響を与えています。しかし、高齢者や障害者の自立を支える福祉機器の開発・普及は絶え間なく促進されていかなければなりません。

保健福祉広報協会では、利用者の福祉機器に対するニーズを把握するため、H.C.R.2006の会期中、「福祉機器利用者アンケート」を実施し、1,108件の回答を得ることができました。

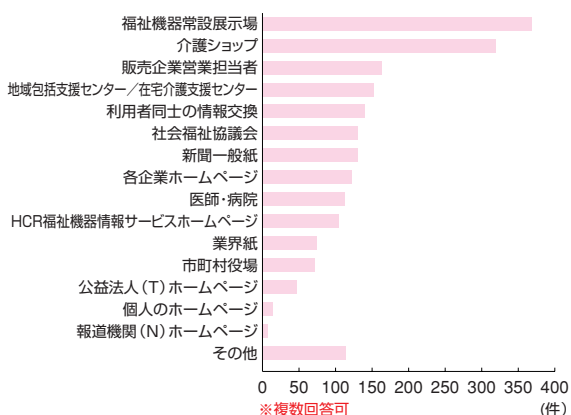
利用者は「安全で」「安価で」「わかりやすい」福祉機器を欲しています。その望みがかなうよう関係者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

1. 福祉機器情報の入手方法

福祉機器情報の入手先は、「福祉機器常設展示場」が369件と最も多く、次に「介護ショップ」319件です。実際に見て触れられることが人気の理由です。

続いて「販売企業の営業担当者」163件、「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」152件、「利用者同士の情報交換」140件となっています。直接顔を合わせて話しを聞けることが安心感を与えているようです。

メディア別では、インターネットのホームページが296件、ペーパーメディアが205件でした。インターネットの検索しやすさが指示されています。



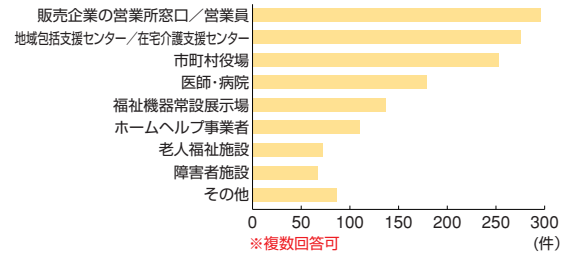
2. 相談窓口

相談先として最も多かったのは、「販売企業の営業所窓口／営業員」296件です。積極的に利用者とはコミニ



ケーションをとっていることがうかがい知れます。

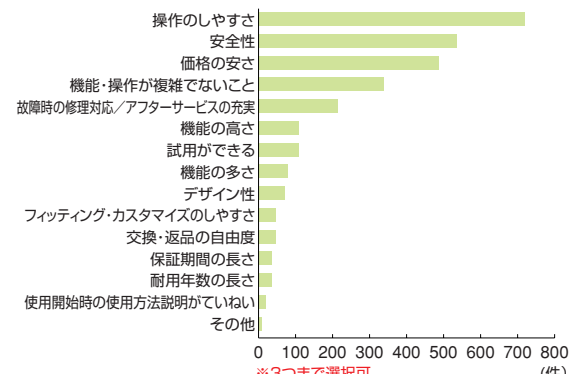
次に「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」276件、市町村役場253件と続いています。中立的な立場が信頼を得ていると思われる。



3. 利用にあたって望まれること

福祉機器の利用にあたって望まれることは、「操作のしやすさ」が719件ととび抜けて多く、「機能の高さ」110件や「機能の多さ」79件を大きく上回っています。そして2番目に「安全性」537件、4番目に「機能・操作が複雑でないこと」が望まれており、先進性よりも安心感やわかりやすさが指示されています。

「価格の安さ」も487件と3番目に入り、相対的に収入の少ない高齢者や障害者にとって強い希望があります。



4. 開発や利用についての意見・要望

福祉機器の開発や利用についての意見・要望でも「安全性」や「価格の安さ」を取り上げる方が多くいら

っしゃいました。また、利用者の使いやすさに加え、介護者にとっても使いやすい機器を望む意見も多く見受けられました。

また、リサイクルシステムや利用者間の情報交換システムの整備などソフト面の充実も求められています。

子ども用の福祉機器は、成長によって直ぐに使えなくなってしまう。リサイクルできるよう情報交換ができるとうれしい。
福祉機器の入手方法についての情報が欲しい。介護保険導入の後、ケアマネジャーが決まっていなかった人の福祉機器利用が難しくなった印象がある。
利用する方が使いやすいだけでなく、介護者も楽になるよう軽量のものを開発して欲しい。
故障したときにすぐに対応してもらえる体制を整えて欲しい。
よりデザイン性の高いものや高額商品も増やして欲しい。
法や制度に左右されやすいため、高額品は買いにくい。
日用品のデザインが欧米に比べ見劣りする。デザイン学校などの協力を得て、楽しく美しい製品が増えることを望む。
機器を使用していくにつれ、要望は安全性と価格に絞られてくる。
体力の衰えやサイズの変化により、毎年機器を買い換える必要がある。そのためには安価な機器が欲しい。

※抜粋

5. 機器に対する不満

車いすでは、ストレッチャー式やモジュール式の乗り心地の改善が求められています。おむつは未だ漏れ、蒸れに不満が多いようです。シャワーチェアやポータブルトイレは姿勢保持が課題のようです。靴はマジックテープに対する不満が複数寄せられました。スロープも軽くて滑らない材質による製品化が求められています。

車いす	小回りがきかず、自宅内で有効に利用できない。ストレッチャー式車いすの乗り心地が悪い。モジュール式は不安定でガタつき易い。可動部がだんだんゆるくなる。
電動車いす	スタートや停車の際、ショックが大きい。
杖	持ち手部分の硬いので、体重をかけて握っていると手が痛くなる。外出すると、おき場所に困る。
ベッド	リモコンスイッチが分かりにくい。畳部屋の場合、脚部分のくい込み跡がつく。
マットレス	エアの音がうるさい。
シャワーチェア	脚先のゴムが劣化したとき、ゴムだけ交換したい。緊張が強い人には使いづらい。
入浴用リフト	リフトの動きが早すぎる。
ポータブルトイレ	姿勢保持機能が欲しい。
おむつ	床ずれ防止のものが欲しい。麻痺があるため片手で使用するが、着脱が難しい。
靴	マジックテープがはがれやすい。
補聴器	目の悪い高齢者でも使いやすいものが欲しい。
スロープ	雨で濡れると滑りやすくなる。重い。
手すり	使用時にすべってしまった。

※抜粋

高齢者や障害者の社会参加の促進のために、福祉機器は大きな役割を果たしています。しかし、その有効活用のためには、利用者のニーズにあった機器の開発だけでなく、駅や道路のバリアフリー化など街づくりも必要です。また、ハード面だけでなく、地域の人々の理解の促進と支援という人々の心も育てていくなど、総合的な取り組みがなされなければなりません。